



JAL ×コペルニク 『人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト』活動レポート インドネシアの学校に浄水器を送ろう！

JALグループは、途上国において、人々の生活の質の向上や貧困の削減など、さまざまな社会課題の解決を図る非営利団体「コペルニク」の活動に賛同し、支援と協働を開始しました。この共同プロジェクトの最初の活動として、インドネシアの学校に浄水器を送る取り組みを実施しましたので、今号はその内容についてご報告します。

文／富山関子



途上国が抱えるさまざまな課題解決のために、シンプルなテクノロジを届ける

「コペルニク」は、2010年2月に米国で設立された非営利団体で、途上国で必要とされるテクノロジ（製品）を発掘し、提供することによって、途上国の社会課題の解決に取り組んでいます。「国と国をつなぎ」、「環境保全」や「安全・安心（衛生状況の改善）」「次世代の育成（生活改善・学習機会の拡大）」などの実現を目指す彼らの活動が、JALグループが取り組むCSR活動の方向性と合致していることから、私たちはコペルニクと協働し「人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト」を進めることにしました。途上国が抱える社会課題はたくさんあります。たとえば、サハラ砂漠以南のアフリカでは人口の65%が電気を利用できず、替わって明かり用に使用する灯油ランプから出る有害な煙が、マラリアやエイズと並ぶ大きな健康被害の一因となっています。そこに太陽光ランプを導入することで、健康面の向上のほか、日没後でも十分な明るさが得られるため、大人には収入増の機会を、子どもたちには勉強できる環境を提供できるようになります。このように、シンプルで革新的なテクノロジが、途上国の人々の生活にとっても大きなインパクトを与えられるのです。

インドネシアの学校に浄水器を！
設置後の状況も含めて現地からレポート



『人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト』は、JALチャリティ・マイル「インドネシアの学校に浄水器を送ろう！」からスタートしました。インドネシアでは水道や浄水の施設が整っておらず、人々はきれいな水を手にするのに苦労しています。また、ペットボトル飲料水のプラスチックごみも問題になっています。そこで、インドネシアの学校に現地の事情に合った浄水器を届け、子どもたちに安全な飲み水を提供するとともに、プラスチックごみの削減にも繋がる取り組み

組みに着手。JALマイレージバンク会員の皆さまにマイルの寄付へのご協力をお願いした結果、浄水器800台を約160校の学校に届ける支援に相当する632万4000マイルもの寄付をいただきました。これにより、およそ1万6000人の子どもたちに安全な飲み水を提供することに繋がる成果を残すことができました。

多くの皆さまのご協力により届けられた浄水器が、現地でのように役立っているか、2名のレポーターをJAL Facebookページ上で公募し、現地に派遣。初めて浄水器を届ける2校と、1カ月前に予め届けた2校を訪れ、現地で見たと、感じたことを彼らの言葉で伝えてもらいました。レポーターのひとり、3年前にバリ島の孤児院でボランティア活動の経験がある明海大学の庭山恵太さん。インドネシアで教師になるという夢を持っています。



「新」に寄付する学校では、先生や村長、現地のNPOが協力し、すぐに浄水器を組み立てることができました。バケツを使い、張り切って水を汲んできた子どもたちは、浄水されたポタポタ落ちてくる水を頬杖をついて楽しそうに眺めていました。そんな子どもたちを見ると浄水器を長く大切に使うてもらえると、率直に感じました。

すでに設置した学校ではまだ1カ月しか経ってはいないものの、子どもたちの学校生活の一部として、もう必要不可



「いい」くつかの小学校を訪問しましたが、なかには以前支援されたトイレが壊れ、使われずに残ってしまっている現状などを目にしました。一度壊れてしまったものを修理することは難しいということ、さらにただ支



もうひとりのレポーター、桜美林大学の高橋里枝さんは、子どもたちが飲料水とどのように関わり、浄水器をどう思うのか自分の目で確かめたかったと話します。

欠なものとなっていることがわかりました。また、この浄水器によって子どもたちは安全な飲み水を手に入れただけでなく、しっかりと勉強に取り組めるようになったこともわかりました。今まで子どもたちはのどが渇けば、徒歩で2、3分の川まで水を飲みに行ったり、わずかなお小遣いで水を購入していたそうです。体育の次の授業は生徒が時間どおりに集まらなかったが、この浄水器がきたことで改善されたというれそうに先生が話していました。

援して終わりではない環境づくりも大切であると感じました。そういった点でも、今回の浄水器は誰にでも使いやすいシンプルさと、浄水器のフィルター交換などを簡単に行うことができるようになっていきます。浄水器が支給されてからすでに1カ月前つ学校では、子どもたちはうれしそうに水を口にしていました。日本では当たり前のことですが、こうしたシンプルなテクノロジーを必要としているところへ届けることで、生活の一部として今後も普及していくことを感じる事ができ、大変うれしく思います。現地を訪れて、自分の目で見て、そして体験したことは、ふたりの若いレポーターにも、多くのものを残したようです。

日本のものづくりの技術を届けることで、日本の産業と地域経済の活性化にも貢献したい

JALとコペルニクは、この共同プロジェクトを通じて日本各地のものづくり企業や大学などを訪問し、途上国が必要とする技術や製品を紹介し、途上国向けのテクノロジを発掘。それを必要とする途上国とのマッチングにも取り組んでいきたいと考えています。こうした活動については今後も随時、ご報告いたします。

『人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト』に関しては、以下のウェブサイトもご参照ください。

www.jal.com/ja/csr/important/bridge/kopernik/

私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。 www.jal.com/ja/csr